

第2回子ども部会

日 時 平成22年6月25日(金)午後1時

場 所 川崎区役所3階第1会議室

午後 1時2分 開 会

出席者(敬称略)

委員 4人

朴栄子、石渡勝朗、深澤香織、宮崎とみ子

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

2 議 題

(1) 部会長の選出

事務局 議題1、前回保留になっていました部会長の選出を行います。部会での意向をもとに事務局で調整して、部会長は朴委員にお願いしたいということでしたが、意見がありましたらお願いします。

各委員 異議なし

<部会長が部会長席に移動し、就任のあいさつを述べる。以後の議事進行を部会長に依頼する>

部会長 職務代理者には深澤委員を指名します。

(2) 部会名の決定

部会長 議題2、部会名の決定ですが、その後いい案が浮かばれた方はいますか。

委員 基本的には子どものことなので、子ども部会でどうでしょうか。

部会長 子どものことを考える部会なので、子ども部会でよろしいでしょうか。

各委員 異議なし

(3) 前回審議内容の確認

部会長 議題3、前回審議内容の確認をお願いします。

事務局 資料1 - (1) は、前回出た子どもの居場所、MRワクチン、カローリングの話、その他ということにくっつけています。資料1 - (2) は流れをまとめたものです。これをもとに、前回こんな議題が出たということを確認いただければと思います。

部会長 前回出た意見がわかりやすくなっていると思いますが、深澤委員は前回お休みだったので、深澤委員が今考えていることも含めて意見をお伺いします。

委員 資料1 - (1) の「子どもの居場所」の中に「地域で子どもを見てあげられる環境づくり」「地域として、子どもも大人も連携できる環境づくり」とありますが、私もみんな子どもを見てあげる、地域で子育てというのが最近には必要ではないかと思っています。今は子育て支援センターが4カ所あり、こども文化センターも支援センターに移行していることもあって、子どもを産んだ後、集まれる場所は結構できていると思います。そこで情報を得ることもできて、ネットワーク化できてきますが、家に帰ったとき、地域での子育てがまだうまく連携できていないので、環境づくりがとても大切ではないかと思っています。

いろいろなイベントも今の若いお母さんたちは受けられる環境にあると思いますが、自分たちが何かをしていこうという力がだんだんなくなっているような気がしています。環境づくりに集約されていってしまいますが、子どもを育てていく中で、自分たちも何かを提供できて、行政や地域やいろいろなところと関係を持ちながら、何か学び合っていて過ごしていけることが必要だと思っています。

部会長 私と宮崎委員は、児童館型の支援センターを持っているこども文化センターで仕事をしています。支援センターが充実してきているのは感じていますが、今言われた点は気がつかない視点でした。お母さんたちが地域に帰ったときに、地域の中でつながりが持っているのかというところの課題はまだ残っていると実感しました。支援センターの中だけ充実してはいけないと感じました。

委員 私も支援センターで遊んでいたほうなので、意外と自分の近所のお友達は少ないです。地域に戻ってきたとき、支援センターがお休みのときは、近所で遊べる子がいなくて、幼稚園に上がるまでそういうお友達がいないことのほうが多いです。若い子育てをしている方も子育てサロンやまちの縁側にもう少し行って、自分の家の周りの人たちと知り合いになることも必要です。今あるものを活用して地域の環境づくりをしていけた

らベストかと思っています。

委員 深澤委員の地域の母親クラブは活性化していますか。

委員 していません。今は京町3丁目ですが、その前に小田5丁目にいました。小田5、6丁目の母親クラブがありましたが、人数はいても、お祭りのときだけ来るとかで、ママ友をつくるのは支援センターになってしまう感じでした。

同じ世代のお母さんたちと知り合いになるのも大切ですが、近所のおばさんたちとかそういう人たちに子どもを知ってもらいたいほうです。そのほうがまちを歩いていても安全で、まちの縁側ももう少し活性化してと思っています。

委員 地域にある母親クラブも独自の企画が昔に比べて少ないという気はします。母親クラブ独自のイベントを年間計画に織り込んでいくと、クラブに在籍している方が適宜自分に合ったようなものを選んで出席し、身近なところの一つグループになります。

委員 母親クラブから小学生になって子ども会に入り、どんどん広がっていくといいですが、母親クラブに入る人も少ない現状もあります。

委員 母親クラブが次に代表になってくださる方がいなくて苦慮しているのは伺っています。そこでいろいろやると、次の小学校へ行って、また中学校へ行ってという過程でつながっていきます。

委員 できているものに参加する方が多いので、運営してくれる人が少なくなっています。でも、できる人はいると思います。働いているときにも結構リーダー格だった方もいると思うので、そういう人たちの力が掘り起こせば一番いいと思います。

委員 小さい子どもを持ちながら、そういうところで自分の充実ある時間を持つと、そのときに培った輪が実際生きています。そういう何かができるくと、地域のお母さん方、同世代のお母さん方の横の広がりができると思いますが、今は時代的になかなか難しいです。

委員 でも、やりたい人はいると思いますが、どうすればいいかわからないのと、行政や町会の力をかりることも頭に浮かばないと思います。それがもう少し知ってもらえると、こういうこともできるといっていろいろなことをやってくれるお母さんは出てくると思います。

委員 地域で中心になる方が一人いていただくと、とてもいい輪ができます。

委員 私たちがやったところは、川崎区内でもそういうお母さんたちが地域にまだ点々といきました。上に立っている人たちが横でつながっていて、協力しながらグループも活性化することをやっていたのですが、子どもが小学校、中学校になってしまっている方たちばかりで下の年齢の活性化には携われなくなりました。下を育てたくても立ち上がってきたくれなくて、世代交代がなかなかできず、川崎区の子育てグループと言われていたものが今はほとんどありません。いろいろな地域でいろいろなグループが出てきてくれるといいです。

部会長 今の話を聞いて、前回のものにもう一つ、ママたちが自分たちの力で何かをつくり出していくような環境が足りないのかと思いました。あと地域とのつながり、子育ての輪をどうつくっていくかという部分を足して、「子どもの居場所」「MRワクチン」「カローリング」ということでまとめてくれていると思います。

「MRワクチン」と「カローリング」は具体的なことだったので、これをどういうふうに進めていくのかというのは思っていました。ここの背景にあるものは何だろうということを課題にして、いろいろなことを考え出していくとしたらいいと思います。

子どもたちが低年齢でたばこを吸っていたりする状況が地域にあり、そういう健康面とか、女の子たちは性的なところも本当に無防備になってきています。自分の健康も子どもたちにどう伝えていくのか。心の健康の中に具体的に「MRワクチン」の問題もあるのではないですか。

「カローリング」は何でカローリングなのか。地域の人たちと交流するのにとてもいいものではないか。交流していくことが子どもとの接点を持つことになっていくという課題があります。

「子どもの居場所」のところに子育ての輪づくりも入れていき、皆さんから出た意見ということで確認します。

(4) 事務局からの情報提供 川崎区の子ども施策について(子ども支援室)

部会長 議題4、事務局からの情報提供をお願いします。

事務局 <「川崎区の子ども施策について」に沿って説明>

部会長 何か意見や質問がある方はどうぞ。

不登校の子どもたちがふえているのは目で見てもよくわかっていました。400ぐらいとい

う数を聞いて、不登校の学校をつくったら、もう1校できてしまうねと会話をしたことがあります。実際に1校分の子どもたちがまちの中にいるか、家の中にいる状況ということですね。

若いお母さんたちがふえている実感はありましたが、こんなにたくさん、しかも人工中絶の数が多いのを見ると、どう考えたらいいのでしょうか。

これが川崎区の実態で、これを題材にしながら考えていきたいと思います。

(5) 審議課題について

部会長 議題5、審議課題について、資料の説明を事務局からお願いします。

事務局 資料2を参考にしながら審議課題と審議テーマを、できれば今日まとめていただけたらと思います。「区民会議だからこそできる取り組み」と抽象的に書いてあってわかりにくいと思いますが、区役所で持っているデータをもとに、いろいろ議論した上でまとめていただけたらと思います。決定に至らなくても仕方がないと思いますが、皆さんで意見を言い合うことでだんだん方向性を固め、鈴木委員が欠席ですので、きょう決めてしまうか、案としてまとめて次回に持ち越すかはご相談いただければと思います。

部会長 2年間かけて行うものと、短期にできるものは短期でという形でやれると思いますが、大事なものとして課題を決めましょうという形だと思います。

委員 前回の区民会議では、行政のほうで進めているものもあるし、まだまだそうでもない部分もあるので、そのあたりを整理していただけるようなお話もありましたが、助言なり指導はありませんか。

事務局 こういうことについて話し合いがしたいともう少し絞った段階で情報提供したほうがいいと思っています。テーマとか課題がある程度絞られたときに、市として、区として、こういう形で今やっていると。では、区民会議ではこの課題に対してどういうところを取り組んでいけるのかという方向になっていくと思っています。余り早い段階でこれをやっている、あれをやっているという、何に手をつけていいのかわからなくなってしまわないかと思っています。前回出た内容ときょうの深澤委員のご発言を聞いて、どういう方向性で話し合ったらいいのか審議したらいいと思いますが、いかがでしょうか。

部会長 前回、具体的にMRワクチンとかカロリーリングという言葉が出て、それを審議課題にすると、どうやって普及しましょうかという話になってしまいます。資料1-(2)

に書いてあるような例えば健康づくりを審議課題にして、どんな方法があるのだろうか、世代間交流でどんなことができるのだろうかを課題にしているいろいろと考えていくと、カロリーリングもMRワクチンも一つの方法であるという形になっていきます。先ほどまちの縁側の話が出ましたが、世代間交流としてまちの縁側の活用があるという形に発展していくと思いますが、どうでしょうか。

委員 具体的に区民会議が提案して、いろいろな人々に働きかけて、その実現を目指すということだと思います。MRワクチンとカロリーリングについては、ある意味ではすぐ実践に移せるものだと思いますので、まずこの2つはとにかくやりましょう。

カロリーリングは大会を実現したいという目的がありましたので、それを関係団体の支援のもとに実現できるのではないかと読み取りました。

MRワクチンは、区民会議が学校、保健所、その他に働きかけて、第3期・第4期も必要なのなるべく受けさせてほしいというPR活動をすることで、実践として考えられるのではないかと思います。

子どもの居場所についてはかなり難しい問題で、課題解決の期間が必要だと思います。例えば、母親クラブの話がありましたが、各町内会にあるとかないとか、しかもリーダーの問題もあって存続できるかどうか、非常に個々の問題になってしまいます。そういう個々のものが無数にあったとき、区民会議はどういうふうに働きかけていくのかはまだ見当が付きません。大師第一社協では、今年度の目標は母親クラブの充実を目指そうと会長が言い出しました。母親クラブの横のつながりとしての連携がもしないとすれば、そのあたりの基盤づくりの働きかけをすべきだと思います。そのためには諸団体を活用することが大事なので、民生委員、社協、いろいろな団体にPRしながら、そういう基盤づくりをする必要があると思います。

結論を言うと、テーマは資料2に書いてありましたが、よくできているので、このあたりを根っこにして考えれば出てくると思います。

部会長 ほかに意見はありますか。

委員 大きな審議テーマのもとで課題は3つではないですか。このあたりを具体的に今後絞って考えていくのが一番現実的だと思います。

委員 今、地域の子どもたちの部分が大きく問題化されている中で、地域で子どもを見てあげられる環境と大人と連携できる環境を大きなくくりの審議テーマにして、その中の枝葉を何という言葉でつなげていくか。基本的には家庭であることはわかり切っていますが、地域がみんな子どもたちに目を向けてあげることをこれからやっていかないと、

子どもが育っていきません。だから、地域で子どもを見る、育つ環境は大きなテーマだと思います。地域がいかに子育てしかり、いろいろな部分に目を向けていくかが大きな問題になってくるという気がします。

いつも言いますが、声がけができる環境はとても大切だと思います。地域の者がおばあちゃん役、おじいちゃん役、おじさん、おばさん、いろいろな形でおのこの役割をやっていかないと、今の子どもたちはすごい難しいと思います。ある意味での環境で育った子は、ある意味での成長段階を踏まなければいけません。地域でその子に声をかけられる状況づくりがあれば、怒ることもしかることもできます。注意をすることもできます。その中で一歩でも二歩でも地域の子どもたちを見てあげることができたらいいと思います。最終的にしっかりした子どもたちの居場所が確保されていきます。

部会長 子ども居場所、MRワクチン、カロリーングという審議課題だと、MRワクチンをどう普及するかということになっていってしまいます。それは、どちらかという、行政の仕事だと思います。いろいろな問題点を区民の意見を聞きながら引っ張り出して、それをどう解決していきましょうか、この解決はここにお願いしていきましょうかと道筋をつくっていくのが区民会議だと思います。MRワクチンとかカロリーングという審議課題は、企画を練る形のような気がします。カロリーングは何でやるのかといたら世代間交流ですが、カロリーングだけではクリアできないこともあるので、まちの中で交流できるような居場所の取り組みが何かできないだろうか提案できていけないでしょうか。大きな審議課題の中から具体的にこんなことができるかもしれないとどんどん掘り下げていって、具体策を次回で出していくみたいな形でどうでしょうか。

委員 大きな審議課題がここにあって、最終的にワクチンであり、カロリーングでありという感じにきつとなりますね。

部会長 カロリーングが審議課題であったら、大会をいつしましょうかという形になって、それは私たちの仕事ではなくて、具体的に普及していくところが企画したりしていくことではないですか。カロリーングをどう普及しましょうかというのは、普及していくような団体に手を挙げてくださると持っていくのが私たちではないかという気もします。具体的な案を目指していく前に、ここに行き着くのは何なんだろうというところが審議課題になっていく気がします。

MRワクチンは健康につながると思うので、子どもの健康づくりをどうしていくかみたいな審議課題の中にMRワクチンがつながっていきます。10代の出産が多いという話を聞いて、自分を大事にするところが基本にないと、他人に愛を求めていってしまうので、心の健康というところで何ができるか。具体的にできることはカロリーングとMR

ワクチンしかないかもしれませんが、そこに行き着くまでにまだほかの課題がいっぱいあるかもしれません。この審議課題に沿って、ほかのものは何があるだろうと1年間ぐらい探って、残りの1年間で、具体的に何ができるのだろうか、何をしましょうかと持っていければと思いますが、違いますか。

委員 それでいいと思います。

部会長 MRワクチンは子どもの健康を考えるという審議課題でよろしいですか。それからカロリーリングは世代間交流ですね。

子どもの居場所は、子どもの居場所とすると、子育てのお母さんたちが抜けてしまうようなイメージがありますが、どうですか。

委員 子どもの居場所というとぴんときません。1 - (2)にある「世代間交流による地域全体での子育て」を2つに分けて、世代間交流と、地域全体の子育てをもう一つの審議課題に持ってきたらどうですか。

部会長 審議課題は、地域での子育て、地域での子どもの居場所、子どもの健康、3つ目が世代間交流による子育てとして、健康のところでもMRワクチンを考える。世代間交流では、カロリーリングを使って交流していこうということでもよろしいですか。子どもの健康というところでは、鈴木委員の意見もこれからきっと反映されていかれることだと思います。

事務局 子どもの健康というところでは、MRワクチンについて担当部署でどういう取り組みをしているかだけ確認はしています。

部会長 では、審議課題は今の3つでいきたいと思います。

(6) 審議テーマについて

部会長 議題6、審議テーマについて、事務局で例として「子どもが健やかに成長できるまちづくり」という大きなものが出ていますが、どんな川崎区の子どもづくりをしていきたいのか、子どもが育つ地域をつくっていきたいのかということですね。

委員 この例を見ると、ほかに浮かびません。

事務局 高齢者部会の審議テーマは高齢者に優しいまちづくり、審議課題は生きがい社会

貢献と高齢者に対する関係づくりです。

部会長 「健やかに成長できる」というところから落ちこぼれ、不健全でなかなか成長しない子どもたちもいっぱいいます。私たちはいい子づくりを求めてしまうので、その言葉の中にいい子を想像してしまいます。そうなれない子どもたちが含められるような何かいい言葉がありませんか。

委員 子育てフェスタのテーマで子どもも大人も元気に何とかというのがあります。そのイメージが抜けませんが、子どもが元気になるまちというか、元気な子どもがいるまちづくりというか、健やかに成長というよりは、もう少しざくばらんにみんなで元気になって生き生きいこうよみたいなイメージで、元気な子どもか、子どもが元気になるまちという感じでもいいです。

部会長 おとなしくて、大人から見たら育てやすい子が元気かということそうではなかったりしますから、元気な子どもがいいですね。自分の意見が認めてもらえると、子どもはすごく元気になって行って、活発なまちになっていきます。そういう子どもたちを育てるにはどんな環境が必要か、どんな親の力が必要か。その親を支える力にはどんなものがあるのかということにもつながるのかもしれないですね。元気な子どもが育つまちづくりとかいいかもしれないですね。

委員 元気な子どもが育つ地域とかまちづくりとかいいと思います。

委員 確かに元気という言葉は生き生きして前向きですね。一番適切な言葉だとも思います。

部会長 元気な子どもが育つまちづくりでどうでしょうか。

各委員 異議なし

(7) その他

部会長 では、議題はクリアしましたが、これでよろしいですか。

委員 11月5日金曜日に教育文化会館で生き生き健康づくり・子育てフェスタをやります。せっかく区民会議で子ども関係、子育て関係について話し合っても、当事者たちになかなかわかってもらえないということもあって、子ども部会もしくは区民会議全体でPRを兼ねて何かできたらいいと思っています。それをやる、やらないも含めて、今後、こ

の場でも話をしてほしいと思っています。

副区長 区全体で川崎区の子どもを考えていこうということで、その一環としてかわさき区生き生き健康づくり・子育てフェスタをバックアップしていきたいし、一緒にやっていきたいということで今回提案しました。区が全部で応援するには、平日業務があるのでなかなか難しいし、昨年、土曜日に開催してくれると、パパも出られるし、家族みんなで出られるからぜひという声もあったので、折衷案でことし金、土ということで多分提案があると思います。経過は逐次報告したいと思います。

部会長 今の区民会議は、実は大変区民の方が知らない会議です。昨年も区民会議を知ってもらうためにはどうしたらいいのかと部会を持って相談されていたぐらいです。子育てのテーマをするので、子育ての大きなイベントに区民会議をお知らせすることと、意見を聞くということで、ブースを持つのはすごくいいと思います。努力をしないと、市政だよりとホームページだけでは何だろうという感じなので、いいことだと思います。

副区長 そこに参加することによって、そういう団体と関係が持てるし、広がりが出てくると感じはします。あと2月の市民活動フェスティバルも結構つながりが持てるものです。

部会長 区民会議のPRと意見を聞くということで、フェスタにも参加して、アンケートか何かつくったらいいですね。

次回は審議課題について進めていくことになりますか。

事務局 審議課題が決まれば、具体的な解決策のほうを考えていただくような形になるかどうかと思います。

部会長 次回、例えば不登校の居場所づくりの実践例とか、まちの縁側でどれぐらい世代間交流ができている地域があるのかとか、隠れざるところでやっていることがあるとか情報があるといいですね。

副区長 実際に自分たちの足で出向いて情報を得るのも一つの手法ですね。

部会長 皆さんがそれぞれ自分たちでこの審議課題についてこんなことをやっていますとか、川崎区にはこんなものがありますみたいなことを出して、その中からこれは応援していこうとか、別のものを考えようとかできるとはと思いますが、どうですか。

副区長 こちらも出しますが、それぞれが出すといっぱい情報があると思います。私たちの知らないことがいっぱいあります。

事務局 地域で細々とやっている活動はどうしても行政が見落としてしまいがちです。区民会議の委員さんたちが近所で耳にしたり、目にしたりする情報を結集して、それをできれば広げたいとかそういうのもありだと思っています。その辺の情報は期待しています。行政が事業としてやっていること、これからやろうとしていることはお伝えできますが、実際にはなかなかできなくて知恵をいただきたいという部分もあります。

部会長 では、今回はこの審議課題に沿って自分が知っている情報、自分の近くにある情報をみんなが持ち寄ってきて、その中から次を考えるということですね。

事務局 もし情報をメールで集約して発信ができるのであれば、次回までの間に事前にお渡しすることもできます。お目通しいただいて、考えをまとめて次回の部会でより具体的な話ができるということも可能性はあるので、その辺を検討されてもいいと思います。

部会長 審議課題に沿ったものの中で、これはどうだろう、こんなものはどうだろうと自分の思いつくままのものでいいと思いますので、それを事務局に送っていただき、それをもとに次回もう少し話を深めていくことでよろしいですか。

委員 確認ですが、子どもの居場所のところはどういうふうに整理をされましたか。

部会長 審議課題は、地域での子育て、子どもの居場所づくりについて審議していきましようということです。

委員 母親との関係とか、もう少し大きなお子さんたちの部分まであわせて子どもの居場所づくりにまとめてしまうのですか。

部会長 特に小中学生は子どもの居場所のほうになっていくと思います。子どもの定義18歳ぐらいまでで、その居場所づくりです。

委員 もう一つ、子どもの健康とか世代間交流という言葉に並べて子どもの居場所づくりになるのですか、それともMRワクチンと子どもの居場所、カロリーリングが同じレベルになるのですか。世代間交流でカロリーリングなどを考える。子どもの健康でMRワクチ

ンなどを考える。子どもの居場所づくりを考えるというのは、例えば安心安全づくりとか何とかというところで考えるとなるのですか。

事務局 審議課題は、1つとして地域での子育て、子どもの居場所づくり、2つ目として子どもの健康を考えるということです。

部会長 MRワクチンとカロリーリングが具体的にもう出ていますが、地域での子育てとか子どもの居場所づくりというところはまだ具体的には出ていません。

副区長 その3つにかかわる情報と課題をみんなが考えて、事務局に送ってもらうということによろしいですか。

委員 基本的にはすべて子どものことだからどの課題にもマッチします。

部会長 子どもの健康のところで、本当にたばこを吸う子が多いです。そういうことの取り組みは学校とか地域とかであるのですか。吸うなは吸い始めた子にはきく言葉ですが、常習化してしまった子には難しいです。

委員 吸うなはもう当然わかっている言葉です。子どもたちは吸ってはいけないのは百も承知です。

部会長 たばこを吸ったのが学校で見つかり、昔は厳重注意でしたが、今は帰されてしまします。もちろん保護者に連絡をとって迎えに来ていただきますが、2回目からは親は行きません。結局、私たちの場所に帰ってきます。そういう子どもたちと上手につき合っている地域はありますか。

委員 小学校のお友達が今ライターを持っています。ライターの使用方法を花火という言葉を使います。こども文化センターにも持ってきます。それが見つかりと預かって、保護者の方に返すから連絡先を教えてと行って、適宜教えてくれる子はまだいいです。

部会長 子どもを説得するためにいろんなことを言います。昔なら高校生ぐらいにしていたようなことを今はもう小中学生に話をしなければいけません。子どもの健康というところでこんな例があるとか、学校と地域がこんなふうに行っていますというものが何かあれば教えていただきたいです。

委員 中学生あたりでもたばこを吸うのは、校内ではほとんどないと思います。近くの公園に行っています。パトロールを今していますが、顔見知りにならないとなかなか素直ではありません。顔見知りになってくると、それなりにやめます。そういう人間関係をつくらないと注意はなかなかできません。

委員 仕事柄、高校生もわかりますから、こんなところではまずいというと、素直によこします。私たちも知らない子にはなかなか声かけられないのが現実です。

委員 家から出ると小学生でも何をしているかわかりません。友達のお母さんがあそこで何やっていたとか言ってくれないとわからないから、地域の人たちとのつながりは本当に大事だと最近つくづく思うようになっていきます。

部会長 地域のおじさん、おばさんがしかっておいたよと言ってくれると、親はしかられて帰ってきた子にいい顔をして、親子関係もよくなることもあります。今は親が全部しからなければいけないので、親はいつも怖い顔をしていなければいけません。

事務局から事務連絡をお願いします。

事務局 始まる前に部会長からカロリーングの資料をいただきました。

部会長 水曜日に3校のわくわくで集まってカロリーングをやってみました。様子がわかっていただければと思い資料を持ってきました。

〔日程調整〕

事務局 次回は7月22日木曜日午後1時から、予備日を7月23日とします。

副区長 <お礼を述べる>

3 閉 会

部会長 閉会します。

午後 2時54分 閉 会